

平成 21 年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告書

学校名	神奈川県立向の岡工業高校	課 程	①・定
校長名	林 康弘	担当者	田垣 繁之
所在地	〒214-0022 神奈川県川崎市多摩区堰1丁目28番1号 Tel 044-833-5221 Fax 044-812-6556		
生徒数	男子 633名 女子 14名 合計 647名		
通学手段	徒歩： 14名 自転車： 146名 原付： 0名 バス： 0名 電車： 487名 その他： 0名		
特 色	本校は機械科・電気科・建設科が設置されている工業高校で、教育目標に健康、誠実、情操、創造、勤労を掲げ、達成に努めている。生徒指導の充実を重点目標とし、基本的な生活習慣の確立、交通事故の防止、交通安全教育の推進等を図っている。 生徒は全県から通学しており、電車通学の生徒が多いが、2割強の生徒が自転車を使用している。また、電車通学の生徒の中には、自宅から最寄り駅まで自転車を使用している者も多数いる。		

1 実施状況

(1) 取組テーマ

- ①ホームルーム活動・教科・学校行事等を活用した交通安全教育の実践
- ②工業高校の特性を生かしたPTA・地域・小学校と連携した交通安全の実践

(2) 取組内容

年間キャッチフレーズ：『安全は 君の気付きの 一歩から』

交通事故は日頃、無意識に利用している交通環境で起きていることから、様々な角度から生徒の「気付き」を促す指導を中心に全校的な取組を実践した。本校ではこれまでも交通安全教育を重点課題にいろいろな取組を実施してきた。本年は、交通社会の一員としての生徒の自覚を促す観点に着目して、生徒の感性・意識に直接働きかける教材を工夫し、ホームルーム活動（LHR）を中心にした取組を実施した。

（◎は新たに取り組む重点事業テーマ）

①1学期

○4月20日（月）

テーマ：生徒の免許取得・車両所持調査を行い実態を把握する。

ねらい：各クラスで担任が免許取得・車両所持調査を行い、届けの提出を求め実態を把握するとともに、指導の参考とする。

◎4月20日（月） 「交通手段調査アンケート」実施

◎6月16日（水） 「交通安全教育の実践」職員研修会

◎6月29日（月） 「第1回全校一斉ホームルーム活動」

テーマ：交通事故の恐ろしさを考える

ねらい：『我が家の交通安全』（平成20年度交通安全ファミリー作文コンクール全国小学児童中学生徒優秀作文集【社団法人日本交通福祉協会】）を読み、各クラスで班分けして感想文を書かせ、それについて



てお互いに討論し合ったり、交通事故の悲惨さや事故原因を考えたりして、このような事故を起こさないようにするための提案をまとめ、班ごとに発表することにより、交通事故の恐ろしさを気付かせる。

◎6月29日(月) 「自転車安全アンケート」実施

②2学期

○9月7日(月)

テーマ：生徒の免許取得・車両所持調査を行い実態を把握する。

ねらい：各クラスで担任が免許取得・車両所持調査を行い、届けの提出を求めるとともに、1学期の調査との違いの分析を行い指導の参考とする。

◎10月14日(水) 「交通安全教育の実践」研修会 職員

◎10月19日(月) 「第2回全校一斉ホームルーム活動」

(1年生：自転車、2年生：バイク、3年生：自動車)

テーマ：危険予測学習

ねらい：絵や映像を見せて、その中の何処にどんな危険が潜んでいるのかグループごとに話し合い、発表することで各人では気付かない危険に気付かせる。また、通学路でのヒヤリハット体験や場所等のアンケート調査を実施するとともに、注意喚起を行う。



◎10月19日(月) 「自転車安全アンケート」実施

○11月10日(火) 自転車点検

生徒が、通学に使っている全ての自転車を整備士による簡単な調整と自転車点検を行い、生徒に自転車の早期修理を促す。

③3学期

○1月8日(金)

テーマ：生徒の免許取得・車両所持調査を行い実態を把握する。

ねらい：各クラスで担任が免許取得・車両所持調査を行い、届けの提出を求め実態を把握するとともに、指導の参考とする。

○2月2日(火)

テーマ：課題研究発表会 教科活動での交通安全研究発表

ねらい：車に対しての注意喚起を促す人形(飛び出し君)を地域の小学校と協力し作成する。自転車を利用して、個人の能力や体型による制動距離の変化の測定、傘差し運転による通常運転とのタイムの差を比べる。駅から学校までの通学路を測量し、都市工学の視点で道路の観察を行う。このように様々な角度から工業高校の特色を生かした交通安全教育の取組を発表する。

◎2月10日(水) 「交通安全教育の実践」研修会 職員

◎2月15日(月) 「第3回全校一斉ホームルーム活動」

テーマ：交通法規学習

ねらい：セーフティ・アクション21を活用し、新しい交通法規のテストを行い、生徒の自覚を喚起させ、交通マナーの重要性を気付かせる。また、通学路上にある交通標識についてクイズ形式で行い、日頃の交通マナーについて振り返らせる。

◎2月15日(月) 「自転車安全アンケート」実施

◎2月中 交通安全標語の募集

◎3月18日(木) 自転車整備士による自転車のマナーと安全についての講話

【第2回 ホームルーム活動 指導案例】

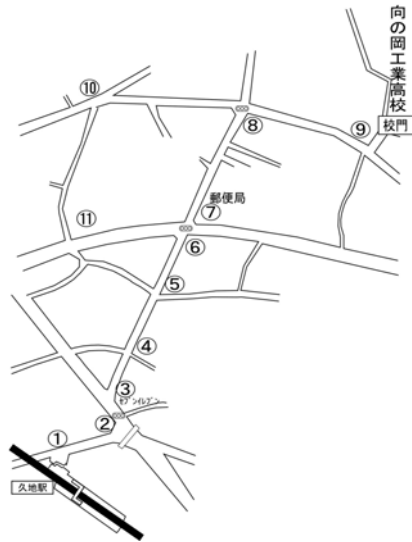
高校交通教育の実践授業 『安全は 君の気付きの 一歩から』

実施日・実施校	2月15日(月) 4校時	向の岡工業高校
授業者・授業クラス	全校職員	全クラス
テーマ	交通法規学習	
ねらい	新しい交通法規をテストやクイズ形式で行い、生徒の自覚を喚起させ、交通マナーの重要性を気付かせる。	
授業のポイント 本時の目標	① 通学路の交通標識を知ること、通学路の状況を把握する。 ② 自転車にも当てはまる交通ルールを正しく知ることにより、生徒の自覚を喚起させる。	
授業展開	学 習 活 動	指導上の留意点
導入 (5分)	① 1時間の流れの説明 ② 資料の配布 ③ 資料活用方法の説明	① 簡素に説明する。
展開1 (10分)	① プリントの問題を個人で答えさせる。 ・ 通学路の交通標識について ・ 交通ルールについて	① 机間巡視しながら、解答の記入を促す。 ② 全てに記入するように指導する。
展開2 (20分)	① 6班に分ける。 ② グループ用資料配布 ③ グループ討議 ④ まとめ	① 班員に、グループ用を配布する時に、問題について話をする。 ② 机間巡視しながら、積極的にグループに入り、話を盛り上げるように誘導する。
まとめ (10分)	① 発表 ② 教員が問題の解答の話をする。 文章中で大事と思われるところを指摘する。	① 全体を静かにさせて、発表者にスムーズにまとめを話させる環境をつくる。 ② 交通安全で気を付けなければいけないところをコメントする。
アンケート (5分)	① アンケート	① 日頃の交通手段についてのアンケートと本日の授業についてのアンケートをとる。
備考(参考・使用資料)		
セーフティ・アクション21 No. 1 No. 2 No. 4 No. 5		

※ 全職員が各クラスに分かれて担任の補佐をし、机間巡視しながら積極的に生徒に声をかけて、様々なアプローチを行った。

【通学路でのヒヤリハット】

2学期に行った通学路での危険箇所アンケートでは、地図に駅から学校までの通学路を示して、生徒には①～⑪の番号の中で日頃から感じている、ヒヤリとしたり場所と危険を感じている場所の番号を記入させ、統計を取った。



ヒヤリとした場所は ()

危険を感じている場所は ()

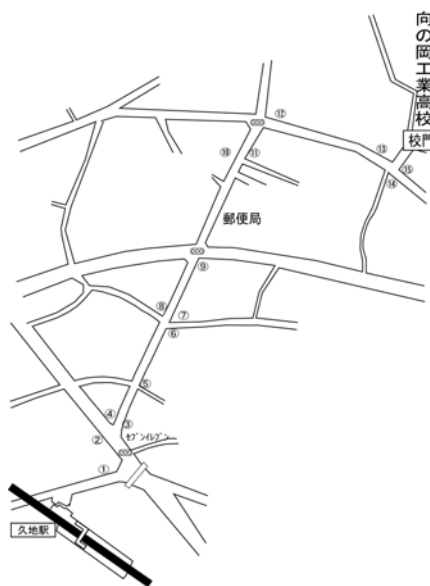
①～⑪で具体的な例があれば、記入してください。

通学路での危険箇所アンケート結果								
	1 学年		2 学年		3 学年		全 学 年	
	ヒヤリ	危険	ヒヤリ	危険	ヒヤリ	危険	ヒヤリ	危険
①	12	13	19	8	11	9	42	30
②	18	13	10	8	11	13	39	34
③	10	14	7	10	10	5	27	29
④	7	9	5	1	5	5	17	15
⑤	13	4	2	4	7	6	22	14
⑥	10	25	5	8	12	14	27	47
⑦	12	23	8	7	10	14	30	44
⑧	8	8	2	5	8	10	18	23
⑨	8	7	3	5	11	7	22	19
⑩	2	2	1	0	3	1	6	3
⑪	0	1	0	0	1	1	1	2

【具体例】

- ① 道が狭い。
自動車や自転車スピードを落とさない。
- ②③ 道が狭いし急に自転車がきて当たりそうになった。
朝学校に急ぐあまり無理やり渡ろうとする。
- ④ いきなり車が出てくる。
ミラーがない。
- ⑤ いきなり車が出てくる。
- ⑥ 生徒が信号無視で轢かれそうになっている。
- ⑦ 郵便局側から、川崎方面への車が曲がる時の
内輪差が怖い、轢かれそうになった。
- ⑦⑧ 路駐のトラックがあり危険。
- ⑧ 信号が短いので無理やり渡る人がある。
- ⑩ 電柱で視界が悪い。

【通学路での標識】



左図の通学路の地図上に、交通標識がある場所に番号を振り、次のような道路標識を載せ、クイズ形式で各人で答えさせた後、グループ討議で道路標識が必要な理由を考えさせて発表させる。



全問正解のクラスはなかったが、回答・解説時に道路標識についての質問が様々出てきて、アプローチの仕方によれば、意識が高まることがわかった。

2 成果と今後の課題

(1) 成果

第1回の全校一斉ホームルーム活動のねらいは、交通事故の被害に遭った人達の悲痛な声を読むことにより、事故を起こさない方法に気付くことである。被害者になっても、加害者になっても悲しい結末になることを沈痛な気持ちで生徒たちは受け止めたようである。

具体的な事故事例やそれらを経験した話を読ませたり、聞かせたりすることは、生徒の情動的な面を刺激する指導教材として、大変効果的であることがわかった。

第2回の全校一斉ホームルーム活動では、1年生は危険予測として自転車で坂道を下る際の、様々な事故を想定し、グループごとに一つのストーリーを作らせ、事故の回避方法について協議させた。

(2年生はバイク、3年生は自動車を取り上げた。)

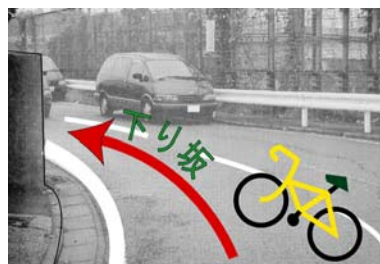
教室では、生徒たちは様々な条件下で事故が起きる様子を表現豊かに発表し、事故の回避方法について発表した。ここでは、事故防止の具体的な方法について実例を挙げて、お互いに考える時間を持つことで、交通事故の回避方法が確認でき成功であった。

第3回の全校一斉ホームルーム活動では、通学路の交通標識当てクイズ、「セーフティ・アクション 21」のNo. 1. 2. 4. 5を使い交通標識の理解度を測り、自転車が車やバイクと同等であるという認識を身に付けさせようとした。

生徒は通学路にある交通標識について認識はあまり深くなく、また問題もやや難解だったようであるが、グループ討議では様々な意見交換を行いながら、正解を求めようとする努力が見受けられた。また、回答の時には様々な声を上げながら、新たな発見や気づきが観察でき交通安全に対する意識が高まったと思われる。

職員の事前研修では、職員が知らなかった交通ルールや勘違いしている例などがあつたが、セーフティ・アクション 21 の解説を用いて研修することにより、交通安全指導のスキル向上が図られ、今後の交通安全指導に役立てることができた。

アンケート結果からも、これらのホームルーム活動をとおして、交通安全意識の向上が着実に図られており、日常生活の様々な場面で交通安全への気づきとセーフティ・アクションの動機づけが形成されつつあることが理解できた。



(2) 今後の課題

- ① 全校一斉ホームルーム活動での交通安全教育は自覚を促す意味では効果があるが、さらにもう一步踏み込んで、交通マナーやルールを生徒自ら自覚的に守ることができるよう、具体的な手立てを考える必要がある。
- ② 第3回全校一斉ホームルーム活動では、多くの要素を入れ過ぎ、質問内容が多岐にわたってしまったきらいがある。生徒の気づきや発見のある授業にするため、思考を促す質問の工夫や考える時間の確保が重要な課題である。
- ③ 全校一斉での展開になったため、施設上の制約より視聴覚機器の利用ができず、印刷物の教材になった。生徒の興味関心を高めるために、実施対象を絞ったり、時期をずらすなどして、視聴覚機器を用いた授業を次回は目指したい。

3 その他

<自転車安全アンケート集計結果>

		(4月20日実施)				(6月29日実施)				(10月19日実施)				(2月15日実施)			
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	合計	
		小計	小計	小計		小計	小計	小計		小計	小計	小計		小計	小計		
自転車の交通ルールを守っているか	はい a																
	いいえ																
	①	一時不停止	16%	14%	17%	15%	14%	14%	17%	15%	14%	15%	15%	15%	16%	10%	13%
	②	安全不確認	13%	15%	12%	13%	10%	11%	14%	11%	8%	12%	12%	10%	15%	15%	15%
	③	傘差し運転	17%	16%	21%	18%	10%	9%	17%	12%	13%	15%	15%	14%	16%	11%	13%
	④	二人乗り	20%	14%	13%	16%	11%	12%	11%	11%	11%	15%	12%	12%	16%	10%	13%
	⑤	右側通行	14%	17%	14%	15%	10%	10%	17%	12%	8%	15%	15%	12%	15%	13%	13%
	⑥	信号無視	20%	15%	19%	18%	12%	13%	15%	13%	13%	14%	15%	14%	18%	11%	14%
	⑦	並進(並列走行)	15%	8%	15%	13%	9%	10%	12%	10%	11%	9%	8%	9%	10%	7%	9%
	⑧	歩行者優先無視	13%	8%	14%	11%	6%	9%	9%	8%	7%	10%	10%	9%	7%	7%	7%
	⑨	交差点不安全進行	9%	8%	11%	9%	5%	5%	5%	5%	6%	7%	7%	7%	9%	8%	9%
⑩	その他()	1%	4%	6%	4%	0%	3%	2%	2%	0%	2%	0%	1%	0%	6%	4%	
ヒヤリハット体験	①	学期中無し	69%	55%	51%	59%	35%	31%	33%	33%	36%	35%	28%	33%	46%	48%	47%
	②	学期中1回	7%	12%	8%	9%	8%	7%	15%	10%	11%	11%	10%	11%	10%	14%	12%
	③	1ヵ月1回	7%	7%	7%	7%	6%	5%	8%	6%	4%	4%	3%	4%	6%	4%	5%
	④	1週間1回	5%	5%	2%	4%	2%	3%	3%	2%	2%	3%	2%	2%	6%	3%	4%
	⑤	毎日ある	2%	4%	4%	3%	1%	3%	4%	2%	1%	5%	5%	3%	1%	2%	2%
交通事故体験	①	学期中無し	82%	78%	62%	75%	41%	40%	39%	40%	41%	46%	30%	39%	56%	43%	48%
	②	学期中1回	5%	4%	4%	4%	5%	4%	7%	5%	3%	3%	5%	4%	3%	7%	5%
	③	1ヵ月1回	1%	1%	2%	1%	2%	1%	3%	2%	0%	1%	2%	1%	0%	1%	1%
	④	1週間1回	0%	0%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	0%	1%	1%	3%	2%
	⑤	毎日ある	0%	2%	1%	1%	0%	0%	2%	1%	0%	4%	2%	2%	0%	0%	0%
自転車運転で気を付けようと思うこと	①	一時停止	22%	21%	22%	21%	25%	30%	44%	32%	34%	31%	37%	34%	31%	24%	27%
	②	安全確認	37%	36%	31%	35%	40%	38%	63%	46%	34%	50%	42%	41%	35%	35%	35%
	③	歩行者優先	49%	22%	21%	31%	17%	21%	26%	21%	19%	19%	23%	20%	25%	26%	26%
	④	後方確認	11%	9%	16%	12%	5%	11%	18%	11%	13%	12%	20%	15%	19%	10%	14%
	⑤	並進をしない	13%	10%	17%	13%	15%	21%	15%	17%	14%	13%	18%	15%	25%	24%	24%
	⑥	スピードの出し過ぎ	43%	35%	32%	37%	40%	38%	42%	40%	47%	44%	33%	42%	41%	45%	43%
	⑦	側方通過	8%	7%	14%	9%	6%	10%	14%	9%	13%	9%	22%	14%	19%	11%	15%
	⑧	早めの情報収集	6%	9%	18%	11%	9%	13%	13%	12%	9%	10%	23%	14%	18%	15%	16%
	⑨	急なブレーキ操作	18%	15%	17%	17%	15%	15%	22%	17%	21%	23%	23%	23%	19%	25%	23%
	⑩	カッパ着用	4%	5%	14%	7%	3%	8%	11%	7%	8%	10%	12%	10%	13%	14%	13%
	⑪	ハンドル操作	12%	14%	21%	15%	14%	16%	18%	16%	17%	23%	20%	20%	25%	25%	25%
	⑫	車間距離	6%	11%	15%	10%	7%	10%	17%	11%	16%	11%	25%	17%	13%	15%	14%
	⑬	早目の行動	14%	9%	16%	13%	10%	13%	12%	12%	15%	19%	17%	17%	18%	19%	18%
	⑭	迷惑行為	22%	21%	21%	21%	19%	20%	26%	21%	20%	18%	23%	20%	28%	16%	21%
	⑮	その他()	2%	3%	9%	4%	1%	3%	4%	3%	5%	1%	10%	5%	0%	1%	1%
①	交通安全LHRは自分の為になりましたか?	はい				51%	53%	67%	56%					68%	57%	62%	
②		いいえ				18%	23%	26%	22%					25%	42%	35%	